

**JSAAE**

**NEWS  
LETTER**

2007 年

**No.33**

7 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

---

|   |                         |    |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 会長あいさつ                  | 2  |
| 2 | 日本動物実験代替法学会第 20 回大会を終えて | 3  |
| 3 | 2007 年評議委員会議事録          | 6  |
| 4 | 2007 年一般会計予算            | 7  |
| 5 | 第 6 回国際動物実験代替法会議の近況について | 8  |
| 6 | 日本動物実験代替法学会第 21 回大会について | 10 |

---

# 会長挨拶

日本動物実験代替法学会会長

板垣 宏

今年から2年間(2007 - 2008年)にわたり、日本動物実験代替法学会の会長をお引き受けする事になりました板垣宏です。私自身、浅学非才の身でこのような大役をお引き受けするような器ではないと思いますが、幸い、副会長に酒井康行先生、総務・庶務担当理事に小島肇夫先生、会計担当理事に岡本裕子先生をはじめとして、経験豊富な先生方に理事や評議員としてご活躍いただくことになりましたので、微力ながら本学会のために努力して参りたいと考えています。

日本動物実験代替法学会は、名誉会員の菅原努先生のご尽力により1989年に設立されました。動物実験代替法の専門学会としては、世界中で最も早く設立された学会であり、関係の先生方のこれまでのご努力により、学会活動は着実に定着してきたものと思います。ご承知のように、動物実験代替法学会は、動物実験代替の3Rs(Replacement, Reduction, Refinement)の係わる様々な方々の意見交換の場と私は考えます。

もう少し具体的に説明いたしますと、代替法、とくにreplacement alternatives (in vitro 試験法)の開発は、その開発段階で整理すると、代替すべき生体反応に関する基礎情報の収集(例えば、標的部位における分子レベルでの反応や遺伝子レベルでの発現、毒性物質の体内動態等)、生体反応の再構築(モデル試験法の作成と開発施設における評価も含む)、試験法のバリデーションと専門家による評価、試験法のガイドライン化と活用、等に大別されると考えます。通常、一つの試験法が代替法としてガイドライン化されるまでには、10年以上の歳月を要すると考えられています。また、代替法開発の鍵を握るものは、代替すべき生体反応に関する基礎情報の収集とも言われております。代替すべき生体の反応がまだブラックボックスでは、代替法開発は極めて困難と言わざるを得ません。そのためには、様々な研究分野を専門とされている先生方

の英知の集合とその具現化が必要です。またバリデーションやガイドライン化には公的機関の先生方やそれを活用する企業の先生方の参加が必要です。一方、replacement alternatives が現時点では不可能な試験法においては、reduction alternatives(動物数を減少させた試験法)やrefinement alternatives(動物の苦痛を緩和した試験法)が必要であり、獣医の先生方や動物福祉に係わる先生方の意見を頂き、コンセンサスを得ることが重要と考えます。さらには、代替法は生命科学研究の考え方を深く理解する必要があります。この観点から、教育や生命観の探索研究分野とも関連しているものと考えます。このように本学会の関連する学際領域は非常に広範囲になりますが、現会員やこれから会員になられる方は、本学会の構成背景を理解された上で、ご自身のお考えを大切にされ、色々な先生方との種々議論を通して生命科学研究における動物福祉と動物実験代替法開発について思索を深めていただければと思います。

私は、専門領域の異なる様々な領域の研究者が集え、議論できる場を提供する本学会の環境や風土を大切に、そして継続して行くことをまず活動の基本として考えています。

元会長の大野泰雄先生や前会長の田中憲穂先生等のご尽力により、2007年8月には第6回国際動物実験代替法会議(WC6)が東京で開催される予定であり、本学会は日本学術会議やAlternative Congress Trust (ACT)とともにこの会議を主催する立場にあります。よって今後2年間の方針の第一に、WC6の成功に向けた全面的協力を挙げたいと考えています。

このWC6の開催に向け、国内他学会との協力関係が構築されました。またアジアで初めて開催されることから、中国や韓国ではサテライトシンポジウムが開催され、特に、韓国では2006年早春に代替法学会が設立されるほど活性化し、中国でも学会設立

の動きがあると聞いています。さらに動物愛護や動物福祉に係わる方々との対話もテーマとして採り上げられる予定です。私は、今回の国際会議により構築されたこのような国内外のネットワークを維持することは、将来の本学会活動にとって非常に有益であり、この点を方針の第二として採り上げたいと考えています。

団塊の世代の2007年問題は、本邦において一つの注目される話題です。本学会においても、私を含めこれまで学会活動に係わってこられた先生方が現職における定年を迎えつつあります。本学会としては、今まで活動された諸先生方のご尽力により念願であった国際会議の日本開催を実現し、ひとつの目標を達成したことになります。今後は、これを契機として、本学会の活動をさらに飛躍させる段階に入

ると考えられます。そのためには、今後の学会活動を担うべき世代の先生方に活躍の場を提供し、更なる向上のために、本学会の環境風土を大切にしながら緩やかな世代交代を行う必要があると考えております。したがって、方針の第三は次世代の先生方に活躍いただける環境作りと考えています。

私は、次期二年間、上記の三つの方針で日本動物実験代替法学会を運営して参りたいと考えています。本学会はとても小規模の学会です。理事、監事、評議員、そして会員の皆さまのご協力により、この2年間の任期を、本学会にとって実り多い充実した活動にしたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

以上

## 日本動物実験代替法学会第20回大会を終えて

第20回大会長 酒井康行

東京大学大学院医学系研究科・疾患生命工学センター 医療材料・機器工学部門；  
東京大学大・生産技術研究所 物質・環境系部門（臓器・生体システム工学）

第20回代替法学会大会は、昨年12月8・9日に東京大学駒場IIキャンパスで開催されました。おかげさまで、総計330名あまりの参加を得て、大変盛会のうちにすべてのプログラムを無事終了することができました。ありがとうございます。

本大会では、第一日目に特に来年の世界大会に向けたアジアでの世論の喚起を期待して、インド・中国・韓国から代表的研究者を招き、「シンポジウム1：アジアにおける動物実験と3Rs」と題して、各国における3Rをめぐる現状と将来を議論するシンポジウムを開催しました。また、「特別公演」としては、JaCVAMと研究面・行政面での連携が期待されるECVAMからは、所長のTomas Hartung先生を招き、特にREACHに対するEUでの代替法をめぐる動きについて特別講演をお願いしました。さらに

その後、「特別企画1：動物実験代替法に関する最近の国内外の動向」と題して、国内外関連公的機関の姿勢や代替法開発の各種共同プロジェクトの動向、その中でのJaCVAMの役割について、議論を持ちました。海外からは、ICCVAMからLeonard M. Schechtman先生をお招きし、米国の代替法をめぐる状況を紹介していただきました。これらの発表については、特に米国からの講演者からの強い意向もあり、発表パワーポイント資料を支障のない範囲でPDFにて後日ご提供いただき、現在、代替法学会のウェブページ内（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsaa/>）に、「平成18年度第20回大会日本動物実験代替法学会記録」として掲載してあります。国内外の状況がおおよそ把握できる優れた資料だと思いますので、ご活用くださると幸いです。

第一日目の午後には、本学会恒例の極めて活発なポスター発表が行われました。合計で 41 演題の発表がなされ、会場が狭かったせいもあり(？) 例年以上ににぎわってしまいました。4 グループに分けたポスター前討論についても、混雑のあまり議論が聞き取れなかった方々も多かったようです。この点に関してはお詫び申し上げると同時に、次回からは何か工夫をする必要があると感じました。これも恒例の参加者からの投票によるゴールドプレゼンテーション章ですが、今回は以下の 2 演題が選ばれました。総会にて表彰が行われました。ひとつは、花王とカネボウ化粧品との共同研究に基づく、「化粧品及び化学品 5 1 原料の眼刺激性予測における短時間曝露法 (STE試験) の有用性と 2 施設間再現性評価」(筆頭演者は花王の高橋豊氏) もうひとつは、国内 22 機関が参加したバリデーションスタディーに関するもので、「皮膚感作性試験代替法 (LLNA-DA法) バリデーション研究」(筆頭演者は大森崇氏) に授与されました。総会において表彰状を授与いたしました。

第二日目には、「シンポジウム 2 : 代替法における新技術の可能性」と題して、様々な生物学的・工学的新技術の代替法への導入を議論するシンポに加えて、(財)石川県産業創出機構による「ナノバイオ動物代替デバイスによるライフケア製品の評価と開発」と題したランチョンセミナーを行いました。この立案に関しては、(株)マンダムさまに大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。午後には、「教育現場における 3R に対する新たな取り組み— 第一回動物実験代替法チャレンジコンテスト—」と題して、中高生を対象とした第 1 回代替法チャレンジコンテストを全く新たな試みとして行いました。奥村彩希子さん(滋賀県東近江市立愛東中学校)、吉田瑞希さん(桐光学園高等学校)、大野迪さん(茗溪学園高等学校)の 3 名からユニークかつ重要な視点からの発表が行われ、全員に優秀発表賞が授与されました。

総会においては、上記チャレンジコンテストに多大なご援助をされた株式会社ノエビア様には、大会より感謝状を授与いたしました。また 3 名の学生の

方々は、WC6 にご招待することになっています。また、2004 - 2005 年の論文賞の表彰が行われ、“Development of a toxicity evaluation system for gaseous compounds using air-liquid interface culture of a human bronchial epithelial cell line, Calu-3”, AATEX, 11, 59-67 (2005), Y. Sakai et al. が受賞しました。

学会の講演要旨集は、事務局にまだ残部がありますので、ご入用の方は、以下の酒井までご連絡ください。これらの企画は、学会内外の多くの先生方のご援助がなくては、実現が到底不可能なものばかりでした。厚くお礼申し上げます。

なお、今回の学会については、代替法学会からの大会開催補助額に相当する 100 万円を使用せずに済ませることができました。主に大学の施設を有効活用したことによるものです。この残金については、大会長としては、世界大会への補助という目的にお使いいただき、という趣旨で、学会にお返しいたしました。ご協賛をいただきました企業・団体の方々、会員ならびに参加者の方々のご理解を求める次第です。

なお、第 21 回の学術的な部分については、8 月 21 - 25 日に東京で開催される世界大会に吸収されることになっておりますので、こちらでも多数のご参加をお願い申し上げます。国内大会運営のための議事その他については、年末をめどにセミナーと一緒に総会を持つことが話し合われておりますが、詳細は未定です。決まり次第、会員の方々にお伝えすることになります。

最後になりましたが、ご講演された先生方、各種ご協賛を頂いた企業・団体の方々、そして何よりも多数御参加くださいました会員内外の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。今後とも代替法研究と学会のご発展へのご協力をお願い申し上げます。

第 20 回大会長・酒井康行(東大生産技研・医学系研究科セ) [sakaiyas@iis.u-tokyo.ac.jp](mailto:sakaiyas@iis.u-tokyo.ac.jp)  
同・組織委員会および事務局



# 2007年評議員会議事録

日 時：平成18年12月9日(土)11時30分  
—12時30分

場 所：東京大学 東京大学駒場 II キャンパス  
An棟404会議室

出席者：板垣宏(会長)、小島肇(総務・庶務)、大野泰雄、田中憲法、林真、大森崇、足利太可雄、若栗忍、畑尾正人、秋田正治、杉山真理子、萩野滋延、岡本裕子、遠藤仁、二宮博義、佐藤温重(監事)、小野宏(監事)(以上、敬称略17名)

欠席：黒澤 努、吉山友二、鎌滝哲也、吉村功、松田幸久(以上、委任状提出済み、敬称略)

配布資料：

- 1) 2007-2008年理事・監事名簿
- 2) 2007-2008年評議員名簿
- 3) 賛助会員一覧
- 4) 2nd circular
- 5) WC6説明資料
- 6) 2006年予算執行資料
- 7) 2007年予算
- 8) 特許資料

議事

酒井副会長欠席に伴い、小島総務・庶務担当が司会を務めた。委任状を含めると評議員29名(監事2名を除く)中、20名の出席となり、会の成立を確認した。

## 1. 新会長挨拶

板垣会長より、所信声明がなされ、来年度以降に取り組む3つの大きな目標を掲げられた。まず、国際会議WC6の成功、次に他学会・市民団体との対話、そして最後に世代交代の推進である。これを実現するために、ご協力をお願いしたいとされた。

## 2. 新理事・監事・評議委員説明

小島選挙管理委員長より、選挙管理委員会を代表して、新評議員、新規約で選ばれた新理事、新監事、会長、副会長の選考過程が説明され、資料1および2を用いて新役員が決定したと報告された。

## 3. 会の動向

小島総務・庶務より、現在の会員数330名、新入会員約30名と紹介し、配布資料3に示すように特

別賛助、賛助および法人会員が19企業または団体であると説明があった。

## 4. WC6国際会議の進捗

大野国際会議会長より、資料4、5(当日配布なし)の資料を用いながら、現在の進捗状況が報告された。板垣会長より、新評議員に対しても協力要請がなされた。

## 5. その他の人事について

板垣会長より、資料1に示す理事担当、委員長からすでに就任の承諾を得ていることが報告された。Ad hoc委員会である規約改訂委員会、バリデーション委員会、評価委員会の中で、規約改訂委員会は大きな規約の改定が終了したことから、設立しないことおよび、評価委員会はJaCVAMが対応する業務と重複することから不要との見解が会長より説明された。バリデーション委員会は存続させ、委員長として大森崇氏(京都大学)から承諾を頂いたとされた。

各委員会の副委員長には、若手を登用するよう会長から依頼があった。

## 6. 2006年度予算執行状況および2007年度予算について

小島総務・庶務が、資料6に示す予算執行状況について説明した。次に、資料7を用いて2007年度予算を説明した。国際会議開催に伴い、大会開催補助をなくしたことおよび、広報委員長の提案もあり、ホームページ刷新の関連費用を150万円に増額したなどについて説明した。ホームページの刷新については、板垣会長から、国際会議を見据え英語版を充実したい、この機会に業者委託も検討したいとされ、来年度初期費用として150万円を計上したとされた。

## 7. その他

資料8を用い、板垣会長から発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けるため、特許庁長官の指定を受けた学術団体が開催する研究集会における発表等に限られる特定の要件を満たす所定の手続が必要との紹介があった。全員一致で了承された。

田中渉外担当より、韓国に引き続き、北京においても代替法学会が発足される可能性があるとの情報提供があった。

以上

## 2007 年一般会計予算

| 収入                |           | 支出          |           |
|-------------------|-----------|-------------|-----------|
| 項目                | 予算額(円)    | 項目          | 予算額(円)    |
| 繰越金(2006 年会計)     | 4,500,000 | 特別事業        |           |
| 年会費収入             |           | 研究助成        | 1,000,000 |
| 計 5,000 円 × 300 名 | 1,500,000 | 論文賞         | 100,000   |
| 納入率 90% として       |           | 大会開催補助      | 0         |
| 新入会費収入            |           | 編集関連費用      |           |
| 2,000 円 × 20 名    | 40,000    | 学会誌発行費用     | 1,200,000 |
| 賛助会費収入            |           | ニュースレター発行費用 | 250,000   |
| 特別賛助会員            |           | ホームページ関連費用  | 1,500,000 |
| 500,000 円 × 5 口   | 2,500,000 |             |           |
| 一般賛助会員            |           | 国際学会関係      |           |
| 50,000 円 × 15 口   | 750,000   | 国際会議役員派遣費用  | 250,000   |
| 法人会員              |           |             |           |
| 100,000 円 × 3 口   | 300,000   | 各委員会経費      |           |
| 雑収入(別刷りなど)        | 60,000    | 企画委員会       | 50,000    |
|                   |           | 国際交流委員会     | 0         |
|                   |           | 財務委員会       | 50,000    |
|                   |           | 広報委員会       | 50,000    |
|                   |           | バリデーション委員会  | 100,000   |
|                   |           | 編集委員会       | 50,000    |
|                   |           | 学会運営費用      |           |
|                   |           | 総務・会計幹事費用   | 100,000   |
|                   |           | 会議費         | 50,000    |
|                   |           | 旅費・交通費      | 200,000   |
|                   |           | 学会事務局費用     | 900,000   |
|                   |           | 振込手数料       | 10,000    |
|                   |           | 予備費         | 3,790,000 |
| 合計                | 9,650,000 | 合計          | 9,650,000 |

2006 年 12 月 06 日作成

2006 年会計幹事  
奥村 秀信 作成

# 第 6 回国際動物実験代替法会議の近況について

( 6<sup>th</sup> World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (WC6) )

WC6 東京、開催まで約 1 ヶ月半

さて、日本の代替法学会としては始めて以来の大行事である第 6 回国際動物実験代替法会議が、8 月 21 日～25 日に東京の東陽町・ホテルイースト 21 東京で開催されます(<http://www.ech.co.jp/wc6/>)。アジア圏で初めての大会とのことで、小さな代替法学会としては非常に苦勞し、また直前の準備に追われております。しかしながら、会員の皆様のご協力にて、何とかこのほど、このほど最終プログラムが決定されましたので、後ろに掲載いたします。この記事が皆様のお手元に届くころにはウェブ上に既に掲載されているものと思います。

おかげさまで総演題数は 460 を超えました。7 つの基調講演と 10 テーマに分かれたシンポジウム、2 日間で約 300 演題のポスター、7 つのランチョンセミナー、そして最終日午後の市民セミナーなど盛りだくさんで、演題だけで見れば、2 年前にベルリンで開かれました第 5 回大会に全く遜色のないものです。

大会への参加のご登録が未だの方は、よろしくお

願い申し上げます。また近隣のホテルも徐々に埋まりつつありますので、ご宿泊の予約はお早めをお願い申し上げます。当日までにいかに多くの方々に参加登録をしていただけるかが、組織委員会の焦眉の課題です。

本学会は、動物実験やその代替法に関与する研究者ばかりでなく、企業・行政の方々にとっても、欧米の最新動向を把握するために好適ですので、ぜひ、身の回りの会員以外の方々へのご参加を呼びかけていただきたく存じます。ポスターは、上記のウェブよりダウンロードが可能ですので、ぜひ、印刷してお部屋の前にお貼りくださいますようお願い申し上げます。多量にご入用の際には、広報までお申し付けください。

それでは、会員内外からの多数のご参加をお待ちしております。

広報担当： 酒井康行(sakaiyas@iis.u-tokyo.ac.jp)

Tuesday, August 21, 2007

|       |  |
|-------|--|
| 15:00 | Registration   |
| 17:30 | Opening Ceremony (Room 1-A)  |
| 18:00 | Animal Welfare Memorial Lecture (Room 1-A) "Professor William Russel(1925-2006): Doyen of the Three Rs"<br>Michael Balls,FRAME, UK |
|       | Award Ceremony   |
| 19:00 | Welcome Reception (Room 1-B)   |



**Wednesday, August 22, 2007**

|       |  |   |  |  |  |  |   |   |
|-------|--|---|--|--|--|--|---|---|
| 9:00  | <b>Plenary Lecture 1 (Room1-A) "3Rs in Mutation Research from <i>in vivo</i> to <i>in silico</i> evaluation"</b>   |   |  |  |  |  |   |   |
|       | Mokoto Hayashi ,NIHS, Japan  |   |  |  |  |  |   |   |
|       | <b>Award Ceremony</b>  |   |  |  |  |  |   |   |
| 9:55  | Coffee Break   |   |  |  |  |  |   |   |
| 10:15 | <b>Session</b>   |   |  |  |  |  |   |   |
|       | <b>Room 1-A<br/>9-2(1)</b>   | <b>Room 3-C<br/>5-4</b>                                   | <b>Room 3-D<br/>5-5</b>                              | <b>Room 3-E<br/>5-8</b>                                  | <b>Room 3-F<br/>8-1</b>  | <b>Room 3-G<br/>1-2</b>  | <b>Room 3-H<br/>3-3</b>   | <b>Room 3-J<br/>4-1</b>                       |
|       | Globalization<br>-Validation &<br>International<br>cooperation-  | Genotoxicity<br>supported by<br>JEMS                      | Developmetal<br>and<br>reproductive<br>toxicology    | Hepatotoxicity<br>/ Neurotoxicity<br>supported by<br>JST | Stem cell<br>science for<br>potential<br>applications in<br>bioassays<br>supported by<br>JTCA              | Alleviations of<br>pain and<br>distress in<br>laboratory<br>animals<br>supported by<br>JALAM | New methods<br>for humane<br>education<br>supported by<br>JALAS | Updates in 3Rs<br>information<br>and services |
| 12:15 | Coffee Break   |   |  |  |  |  |   |   |
| 12:30 | <b>Luncheon Seminar</b>  |   |  |  |  |  |   |   |
|       |  | Room 3-C<br>1. Charles<br>Liver<br>Laboratories<br>Japan  | Room 3-D<br>2. RCC Japan<br>Ltd.                     | Room 3-E<br>3. LMS CO.,<br>Ltd.                          | Room 3-F<br>4. NOSAN<br>Corp.  |  |   |   |
| 13:15 | Coffee Break   |   |  |  |  |  |   |   |
| 13:30 | <b>Room 1-B Poster Sessions Theme 1, 2, 3, 4, 7,8, 9</b>   |   |  |  |  |  |   |   |
| 15:30 | Coffee Break   |   |  |  |  |  |   |   |
| 15:45 | <b>Key Note Lecture 1 (Room 1-A) " A British Example of Balanced Inquiry into the Ethics of Animal Experiment"</b> |   |  |  |  |  |   |   |
|       | Baroness Perry of Southwark, House of<br>Lord , UK   |   |  | <b>Session</b>   |  |  |   |   |
|       | <b>Session</b>   |   |  | <b>Room 3-E<br/>5-12</b>                                 | <b>Room 3-F<br/>5-6</b>  | <b>Room 3-G<br/>4-4</b>  | <b>Room 3-H<br/>8-4</b>   |   |
| 16:15 | <b>Room 1-A<br/>2-3</b>  | <b>Room 3-C<br/>9-1</b>                                   | <b>Room 3-D<br/>10-3</b>                             | Comet assay  | Research,<br>development<br>and evaluation<br>of new<br>approaches for<br>predicting skin<br>sensitization | Methodology<br>for validation<br>process of<br>alternative<br>assays                         | High-throughp<br>ut screening                                   |   |
|       | Cultural<br>progress in<br>animal welfare<br>and 3Rs<br>principles in<br>Asian<br>countries                        | Globalization<br>-Attitudes to<br>severity<br>assessment- | Linking risk<br>assessment and<br>risk<br>management |  |  |  |   |   |
| 18:45 | <b>Adjourn</b>   |   |  |  |  |  |   |   |

**Thursday, August 23, 2007**

|       |  |   |  |                                   |  |  |   |   |
|-------|--|---|--|-----------------------------------|--|--|---|---|
| 9:00  | <b>Plenary Lecture 2 (Room 1-A) "Assessment and alleviation of pain and distress of laboratory"</b>                                |   |  |                                   |  |  |   |   |
|       | Paul Flecknell, Newcastle Univ., UK  |   |  |                                   |  |  |   |   |
|       | <b>Award Ceremony</b>  |   |  |                                   |  |  |   |   |
| 9:55  | Coffee Break   |   |  |                                   |  |  |   |   |
| 10:15 | <b>Session</b>   |   |  |                                   |  |  |   |   |
|       | <b>Room 1-A<br/>9-2(2)</b>   | <b>Room 3-C<br/>10-1</b>                              | <b>Room 3-D<br/>5-7</b>  | <b>Room 3-E<br/>5-11</b>          | <b>Room 3-F<br/>8-2</b>                                  | <b>Room 3-G<br/>4-3</b>  | <b>Room 3-H<br/>6-2</b>                               | <b>Room 3-J<br/>7-1</b>   |
|       | Globalization<br>-Validation &<br>International<br>cooperation-  | RA strategies:<br>new concepts<br>and<br>developments | LLNA:<br>Developments<br>and lessons for<br>alternatives<br>validation                   | Endocrine<br>disruptors           | Human cells<br>and tissue<br>models                      | Regulatory<br>requirements<br>for the<br>consideration<br>of alternatives  | In vivo<br>alternative<br>testing in<br>ecotoxicology | 3R's achievement<br>in vaccine and<br>sera quality<br>control     |
| 12:15 | Lunch supported by the 6th World Congress  |   |  |                                   |  |  |   |   |
| 13:00 | <b>Key Note Lecture 1 (Room 1-A) "Accomplishments of ZEBET, the National Centre for Alternatives in Germany, from 1989 - 2007"</b> |   |  |                                   |  |  |   |   |
|       | Horst Spielmann, ZEBET, German   |   |  |                                   |  |  |   |   |
| 13:30 | <b>Session</b>   |   |  |                                   |  |  |   |   |
|       | <b>Room 1-A<br/>10-2</b>   | <b>Room 3-C<br/>5-1</b>                               | <b>Room 3-D<br/>5-2</b>  | <b>Room 3-E<br/>1-4</b>           | <b>Room 3-F<br/>8-3</b>                                  | <b>Room 3-G<br/>2-1</b>  | <b>Room 3-H<br/>3-2</b>                               | <b>Room 3-H<br/>7-2</b>   |
|       | Assessment of<br>animal health<br>risks and<br>animal welfare<br>risks   | Alternatives<br>for acute<br>systemic<br>toxicity     | Research,<br>development,<br>and evaluation<br>of alternatives<br>for ocular<br>toxicity | 3Rs for<br>primate in<br>research | 3R<br>technologies:<br>Testing<br>systems and<br>imaging | Genetically<br>engineered<br>animals and<br>the 3Rs: moral<br>responsibility<br>in the<br>generation of<br>new animals | Alternatives in<br>education all<br>over the world    | 3R's<br>achievement in<br>other<br>biologicals<br>quality control |
| 15:30 | <b>Excursion</b>   |   |  |                                   |  |  |   |   |

## 日本動物実験代替法学会第 21 回大会について

国際代替法会議を開催するに当たり、本年は大会を開催しないことが過去の評議員会および総会にて決定しております。第 21 回大会は 2008 年に開催予定ですが、現在、大会長、日時及び場所は未決定です。

日本動物実験代替法学会事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501号室 学会事務局  
TEL:03-3811-3666 FAX:03-3811-0676  
E-mail : [gakkai@g-jimukyoku.jp](mailto:gakkai@g-jimukyoku.jp)

発行：日本動物実験代替法学会  
会長：板垣 宏  
担当：広報委員会 委員長 吉山 友二  
学校法人 共立薬科大学 臨床薬学教室  
〒105-8512 東京都港区芝公園一丁目 5 番 30  
TEL:03-5400-2667 FAX:03-3434-5343  
E-mail: [yoshiyama-yj@kyoritsu-ph.ac.jp](mailto:yoshiyama-yj@kyoritsu-ph.ac.jp)

動物実験代替法世界大会が、アジアで初めて東京で開催されます。動物実験における3R原則(削減・代替・洗練化)に関連する480題以上の演題が発表されます。動物実験やその代替法に関与する研究者ばかりでなく、企業・行政の方々にとっても、欧米の最新動向を把握するために好適です。多数のご参加をお待ちしております(詳細は以下のウェブページ)。

第6回世界大会組織委員会

## 6<sup>th</sup> World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences

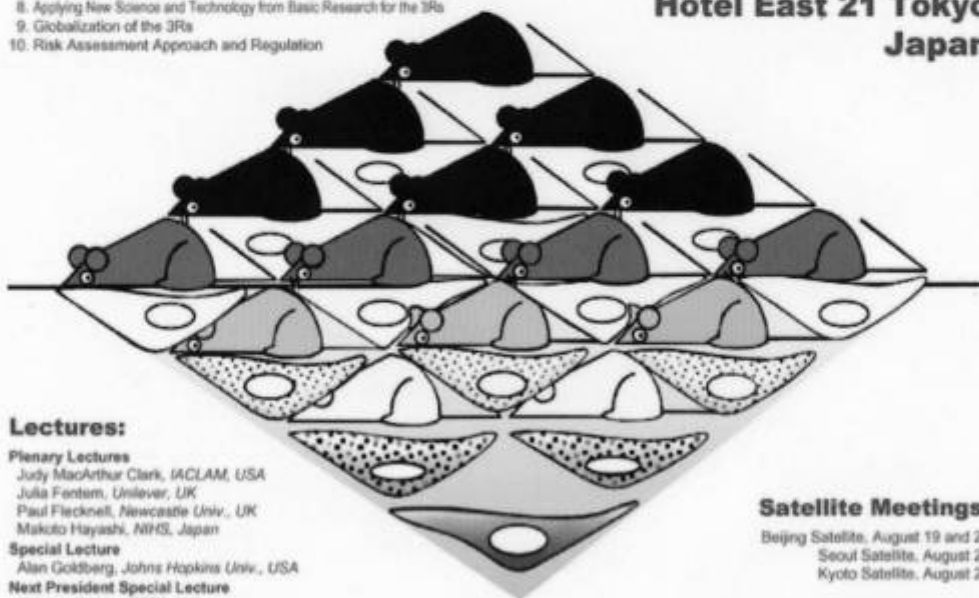
— Review progress made toward the 3Rs —

2007  
6<sup>th</sup> WORLD CONGRESS

### Symposia on:

1. Animal Welfare
2. Moral, Ethical and Cultural Issues, and Public Policies of Animal Usage
3. The 3Rs in Education and Training
4. Knowledge Management and Information Services
5. Toxicology/Validation
6. Ecotoxicology
7. The 3Rs in the Development, Production and Quality Control of Biologicals
8. Applying New Science and Technology from Basic Research for the 3Rs
9. Globalization of the 3Rs
10. Risk Assessment Approach and Regulation

August 21-25, 2007  
Hotel East 21 Tokyo  
Japan



### Lectures:

#### Plenary Lectures

Judy MacArthur Clerk, IACLAM, USA  
Julia Fentem, Unilever, UK  
Paul Flecknell, Newcastle Univ., UK  
Makoto Hayashi, NIKS, Japan

#### Special Lecture

Alan Goldberg, Johns Hopkins Univ., USA

#### Next President Special Lecture

Herman Kolter, EFSA, Italy

#### Animal Welfare Memorial Lecture

Michael Balls, FRAME, UK

### Open Symposium for Citizens

### Satellite Meetings:

Beijing Satellite, August 19 and 20  
Seoul Satellite, August 20  
Kyoto Satellite, August 26

### Congress Presidents

Yasuo Ohno and Horst Spielmann

### Under the Auspices of

Japanese Society of Alternatives to Animal Experiments (JSAAE)  
Alternative Congress Trust (ACT)  
Science Council of Japan (SCJ)

<http://www.ech.co.jp/wc6>